家庭数配付

No.539　7月号　令和6年6月28日

西東京市立東伏見小学校
校 長　中嶋 太

かけはし

学校ホームページ 更新中！

学校HP

7月1日　開校記念日

校長　中嶋　太

７月の行事予定表を眺めていて、「７月１日　開校記念日」の文字に「誇らしさ」と共に、「疑問の念」を抱きました。「誇らしさ」とは、開校から今年度で 68 年目に当たる、歴史の重みに対してです。また、「疑問の念」とは、本当に７月１日に開校したのだろうかといった、興味・関心です。学校ごとに開校記念日は設定されていますが、実際に開校した日は４月１日ということが意外と多いからです。そこで、調べてみることにしました。

> 省みますと、開校されました昭和 31 年７月１日は、大変暑い焼けつくような日照りの日でした。お粗末な 14 教室の校舎で、一室が職員室にあてられ、残り 13 教室は特別教室も普通教室に転用され、デコボコだらけの校庭には丈なす雑草が繁り、まるで原野のようで、672 人の児童が並ぶ式場だけが僅かに空いていた中で開校式は行われました。今日の東伏見小学校の現状からは全く想像も及ばない状態の中に、然も１・２学年は１クラス 59 人から 65 人の超スシ詰めで編成を余儀なくされましたが、保谷小学校、第二小学校で長い間の二部授業から解放され、両校から先生に引率されて開校式に参列した子どもたちは、炎天下もいとわず、独立した自分たちの校舎で自由に勉強が出来る喜びに瞳をかがやかせておりました。

上の文章は、『創立十周年記念誌　東京都北多摩郡保谷町立東伏見小学校』にて、当時、教育委員長をされていた山田ユリエ氏がお書きになったものです。この文章からは、昭和 31 年７月１日に開校式が挙行されたこと、保谷小学校と保谷第二小学校から 670 人を超える児童が移ってきたこと、移動元の保谷小学校・保谷第二小学校では二部授業（午前・午後など）の入替え授業を行っていたこと、開校当初の１・２年生は１クラスの児童数が最大 65 人だったこと、校庭は雑草だらけだったことなどが分かります。

> 北郡保谷町では新入学児童の急増と遠隔地通学児童の便を図るため同町下野谷に総工費 1390 万円で昨年 12 月末から東伏見小学校を新築していたが、このほど完成、来月１日開校することになった。

さらに、スクラップブックから、上のように記された新聞記事を見付けました。「朝日新聞　昭和 31 年６月」と記してあります。新聞記事には、木造２階建と思われる校舎の写真が付いていました。

以上のことから、初期の校舎が昭和 31 年６月に完成し、７月１日に開校を迎えたことが分かりました。改めて、７月１日が、学校の開校日として、意味深い日であることを確認することができました。

一昔前、二昔前には、開校記念日は休業日として多くの学校で休みでした。ところが、授業時数確保等の理由から、最近は、休みにすることは滅多にありません。通常の授業日ではありますが、学校の歴史を振り返り、伝統を継続・発展させていくきっかけとしたいです。

☆７月　生活目標　「気持ちのよいあいさつをしよう」

挨拶は、コミュニケーションの第一歩です。本校では、挨拶指導に重点を置き、徹底・習慣化を目標にしています。学校では、「誰にでも」、「自分から」、「元気よく」挨拶できるように取り組んでいきます。ご家庭でも、ぜひ挨拶についてお子様と話をしてください。

生活指導部